

家づくりで大切なこと。アウルウイングはこう考えます。

家そのものを丈夫にすることです。

家づくりで大切なことは、骨組みのしっかりした丈夫な構造をつくること。

外の熱を家の中に入れず、室内の冷氣・暖気を外に逃がさない。

いわゆる熱をコントロールすること。

家の構造そのものが、健康で、丈夫で、省エネ体質になっていれば、建物も長持ちします。

おすすめは木の家です。

湿気を吸ってくれる調湿作用や健康にいい香り成分をもっていること、色が目にやさしいとか、木目のパターンがα波を誘って癒し効果があるとか日常生活を送る上でいいことづくめです。弱点もあります。ずっと湿った状態だと木を腐らせるバイ菌が繁殖して木を腐らせてしまいます。でも、濡れてもすぐ乾くようにすれば大丈夫。つまり、空気がふれるところでは濡れてもじきに乾くのであれば大丈夫です。問題は、空気にふれない場所にある木たちです。例えば、壁の中に封じ込められた木や土台に使われている木は空気にふれることはありません。木の家が腐る心配を消し去るのが、**エアサイクルの家**なのです。

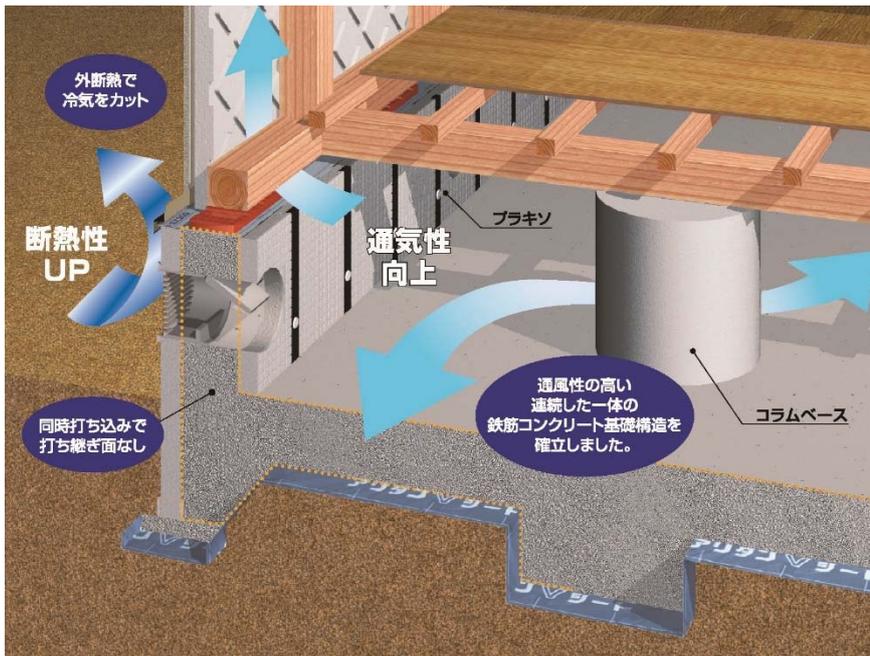
エアサイクルってなあに？

ひとことでいうと太陽や風や大地のエネルギーを借りて家の壁の中、床下、屋根裏にぐるぐると空気をめぐらせる仕組みです。この“ぐるぐる”がすごいです。エアサイクルを組み込んだ木の家を「**エアサイクルの家**」と呼びます。

壁の中で守ります。床下で支えます。

エアサイクルの家は、断熱材（エアサイクルボード）が、建物の外側に家全体を包むように張られています。この断熱材には、空気の通り道が組み入れられています。断熱と同時に、床下、壁の中、屋根裏をつなぐ空気の通り道が出来あがるのです。家の骨組みに使われている木は、いつもその空気にふれているので、たとえ湿ってもすぐ乾き、腐る心配がありません。それで木の家をぐーんと長持ちさせるというわけです。



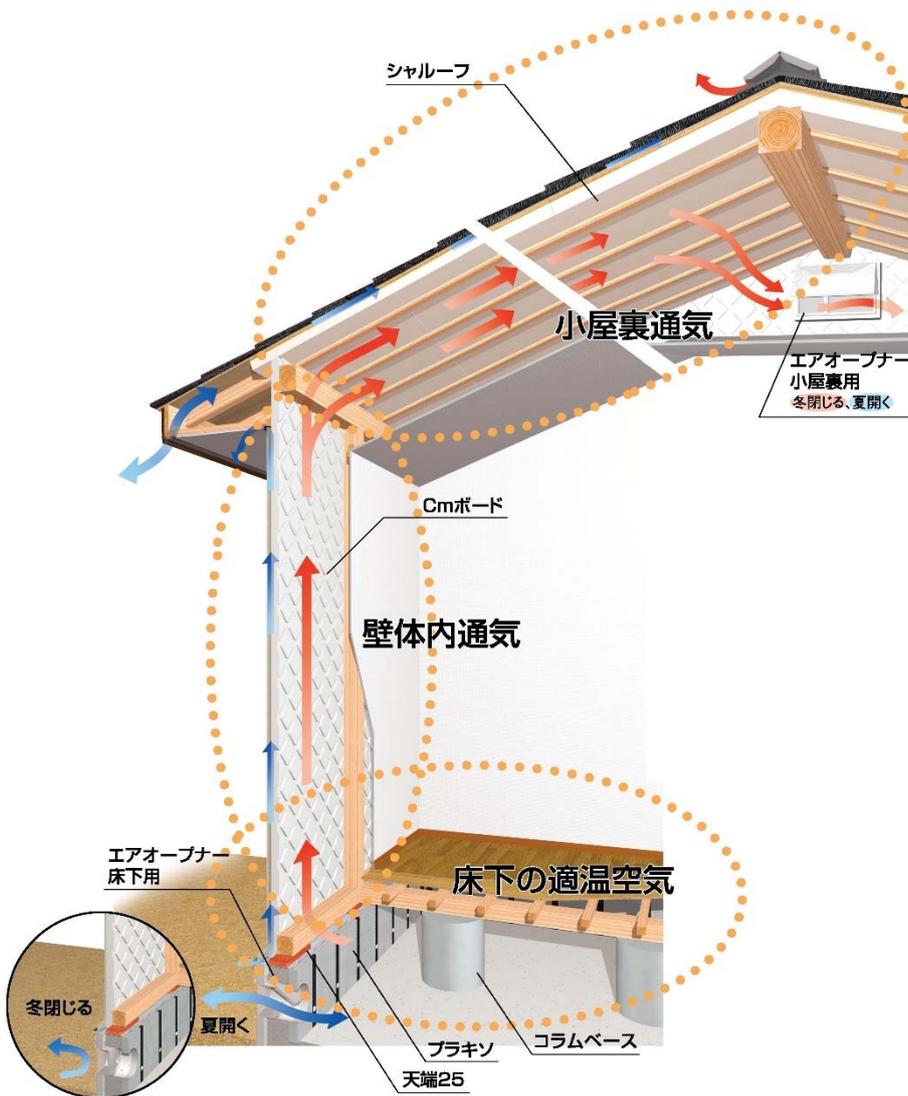


床下には、円い柱のようなものがあります。コラムベースといいます。コラムは、柱。ベースは、基礎。このコラムベースを基礎に採用していることで、床下はいつも風通しがよく、湿気もたまりません。土台に使われる木が健康になります。シロアリもカビもナシです。コラムベースは基礎と一体なので、地震のときは、強固な支えとなってくれます。見えないところで、建物を守っているんです。エアサイクルは建物に優しいシステムなのです。

ぐるぐるの秘密

「エアサイクルの家」は壁の中を空気がぐるぐるまわっています。ぐるぐるまわりながら、湿気を乾かし、木を健康にしています。でもそれだけじゃないんです。夏は、涼しい空気をまわし、冬は、暖かな空気をまわします。機械は使わず、自然にまわっているのです。空気の通り道をエアサイクル層と呼びます。床下と屋根裏には換気口が付けられています。夏は、この換気口を開けます。南側のエアサイクル層の空気は夏の日差しで暖まって、上昇気流になって屋根裏の換気口から外へ出されます。同時に床下の換気口から涼しい空気を壁の中に吸い上げます。こうした空気の流れをつくることで、屋根裏や壁の内部の熱がこもらないようにしているのです。冬はこの換気口を閉じ、外の冷たい空気の浸入を防ぎます。密閉されたエアサイクル層の空気が、日中の太陽熱や地熱によって南側が暖められ上昇気流で壁の中を通過して屋根裏へ移動します。屋根裏の換気口も閉じている

ので、「熱は温度の高いところから低いところへ伝わる」ので北側のエアサイクル層へと移動していきます。壁の中を空気がぐるぐるまわるのです。家全体がぬくもりで包まれるので、温度差もなくなります。



ずばり健康住宅。

家の中でも起きる熱中症、冬、寒くて神経痛に悩まされる・・・家の暑さ・寒さが、家族の健康を左右するかもしれません。

冬の厳しい富山では、暖かい家にあこがれます。暖かい住まいでは、睡眠効率が上がるそうです。睡眠不足では疲れがとれません。そして、寒いと身体がキュッと縮こまったり、こわばったりします。暖かい家ほど元気に動けます。

家の中での温度差があると、ヒートショックが心配です。

ジメジメした梅雨時の湿気がカビやダニを繁殖させアレルギー性疾患につながることもあります。

だから、「エアサイクルの家」なのです。

地球に優しく・・・。

木の家とエアサイクルを組み合わせることで、家を長持ちにできること。

自然の恵みを活用しながら、地球に優しい家ができること。

住む人が健康で快適に暮らせる家ができること。

癒しとやすらぎのある家。

「エアサイクルの家」に住むあなたを想像してみてください・・・

住んでから得られる快適な住み心地。

節約できる暖冷房費。

自然と調和した健康な暮らし。

地球の環境の改善に役立つことの喜び。

健やかで安心な老後。

子供たちや孫たちの未来をおもう。